

個人投資家様向け 会社説明会

2023年12月2日

本日のご説明項目

J-POWERの概要

J-POWERの事業

J-POWERの未来

投資家様へのご案内

本日のご説明項目

J-POWERの概要

J-POWERの事業

J-POWERの未来

投資家様へのご案内

J-POWERをご存じですか？



DAM-DATA

所在地：岐阜県大野郡白川村
 河川名：庄川水系庄川
 型式：ロックフィルダム
 ゲート：ローラーゲート×1門
 ドラムゲート×1門
 堤高・堤頂長：131m・405m
 総貯水容量：3億7,000万m³
 管理者：J-POWER
 本体竣工済年：1957/1960年
 URL：www.power.co.jp/damcard/miboro.html

ランダム情報

水没予定地にそびえ立つ樹齢約400年（当時）の2本の老杉。世界にも例がない巨木の大移植。水没地域の人々の心の拠り所となった2本の老杉は「庄川桜」と命名され、今も御母衣湖畔で花を咲かせています。

こだわり技術

国内初の大規模ロックフィルダムであり、建設当時は「東洋のピラミッド」と謳われました。また大型機械を海外から輸入することで、建設工事を短期間で完成させました。

J-POWERはこんな会社です

コミュニケーション
ネーム

J-POWER

設立

1952年

政府出資の特殊法人
として誕生

民営化

2004年

東証第一部に上場、
完全民営化

連結従業員数

7,078名

海外事業

60カ国以上

海外コンサルティング事業
・海外発電事業実績

水力発電
(持分出力*)

国内第2位

風力発電
(持分出力*)

国内第2位

2050年
CO2排出目標

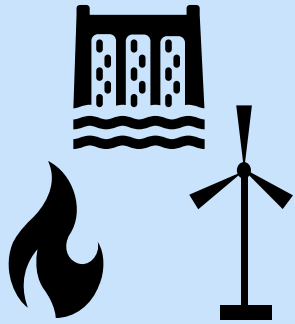
実質 0

* 持分出力：設備出力に出資比率をかけた出力
数字は全て2023年3月末時点

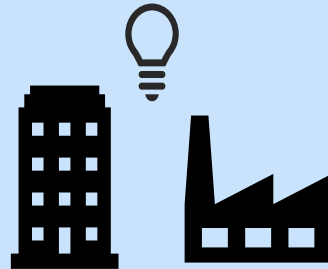
当社グループの主要な事業領域

電気事業

発電

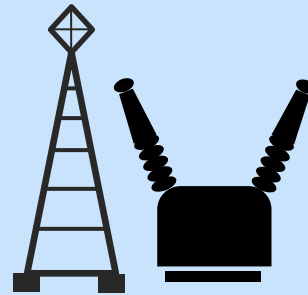


電力販売



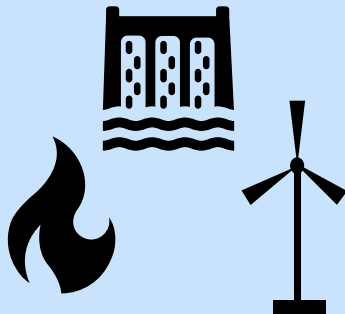
送電・変電

送電線 変電所

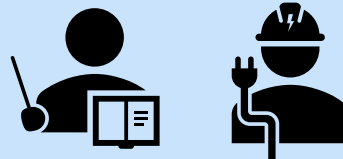


海外事業

発電



コンサルティング

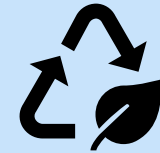


その他事業

発電所の運営や保守



バイオマス燃料の調達・製造



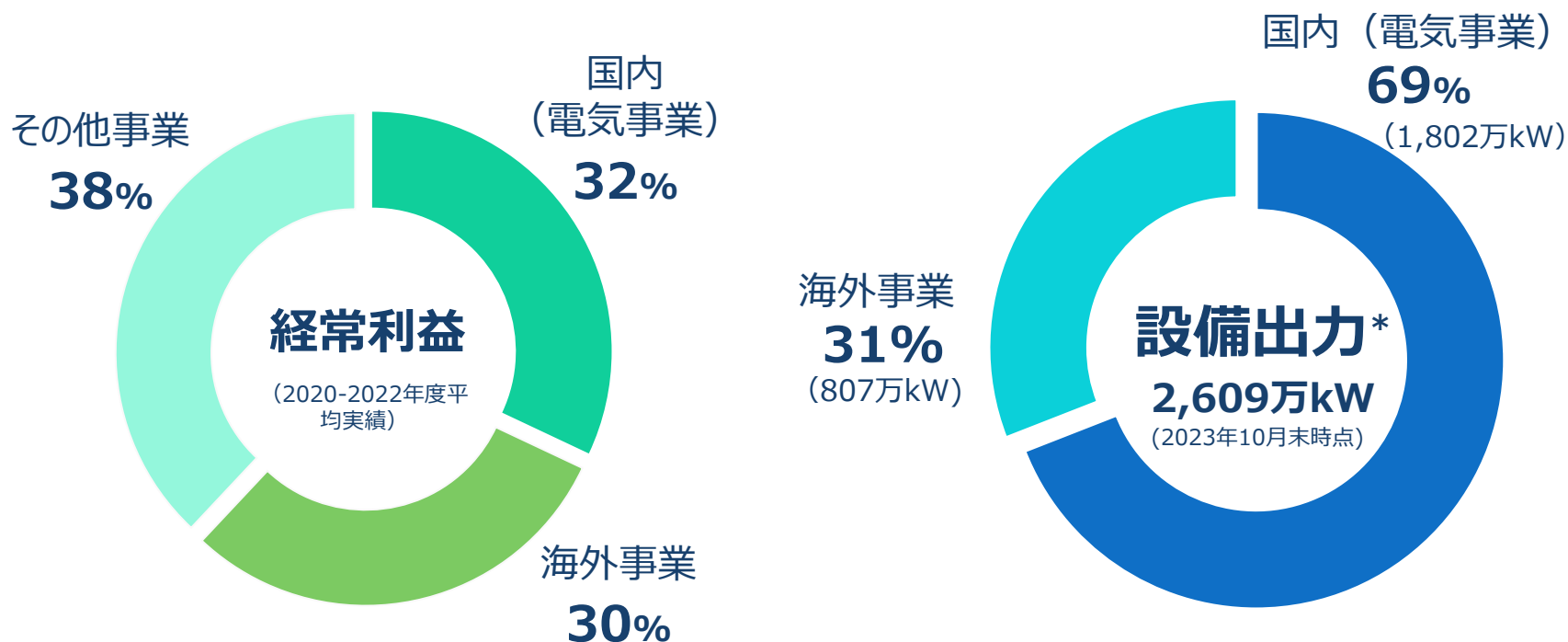
炭鉱投資



※「その他事業」は、「電力周辺関連事業」および「その他の事業」のセグメントから構成される。

当社グループの主要な事業領域

- ・経常利益は国内（電気事業）・海外事業・その他事業がそれぞれ約**3割**ずつ
- ・設備出力の**7割**が国内（電気事業）、**3割**が海外事業
- ・国内（電気事業）では約**2,400km**の送電設備も保有



*設備出力は出資比率を加味した持分出力。

本日のご説明項目

J-POWERの概要

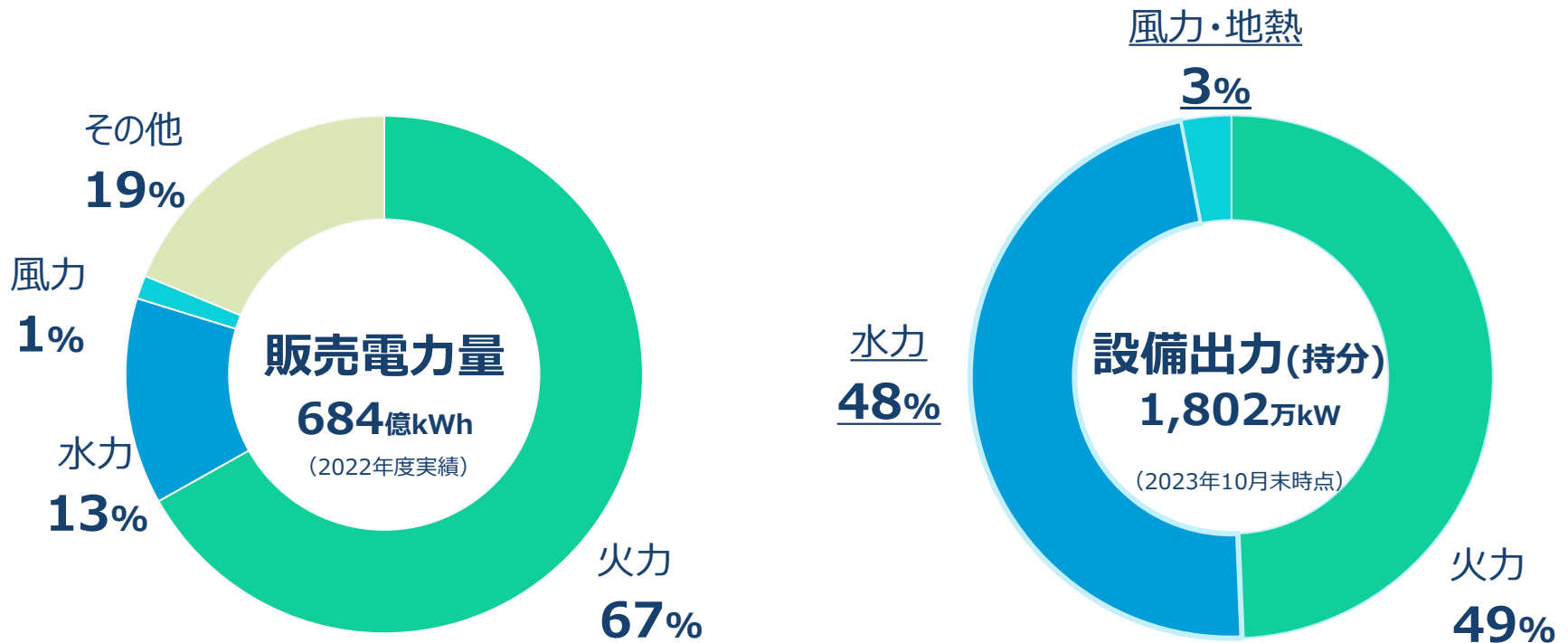
J-POWERの事業

J-POWERの未来

投資家様へのご案内

①電気事業

- ・国内に水力、風力、地熱、火力の発電設備を保有
- ・設備出力（国内・持分）ベースでは、再生可能エネルギーが**50%超**を占める
- ・原子力発電所も建設中



※グラフは2023年10月末時点 国内持分出力（未定の場合は想定最大持分出力）

①電気事業



【水力発電】

- ・全国**61**カ所に約**860**万kWの設備を保有
- ・国内シェア第**2**位
- ・高経年設備の**アップ**

サイクル（最新技術の導入による価値向上）を
順次実施



NEXUS佐久間計画
（写真は現在の佐久間発電所）



【地熱発電】

- ・**2**地点で運転中（山葵沢(秋田)・鬼首(宮城)）
- ・さらに**1**地点で新規建設中（安比(岩手)）、
1地点で調査中（高日向(宮城)）



【火力発電】

- ・**40年以上**にわたり、石炭調達～発電までの一連の効率向上と環境負荷低減を追求



【風力発電】

- ・全国**21**カ所に約**50**万kWの設備を保有
- ・国内シェア第**2**位

調査～建設中*

最大**111**万kW

運転中 **51**万kW



福岡県 北九州響灘洋上
ウインドファーム(建設中)

*国内一般海域での洋上風力は外数。
順次行われる公募を地点毎に検討し適宜対応していく。



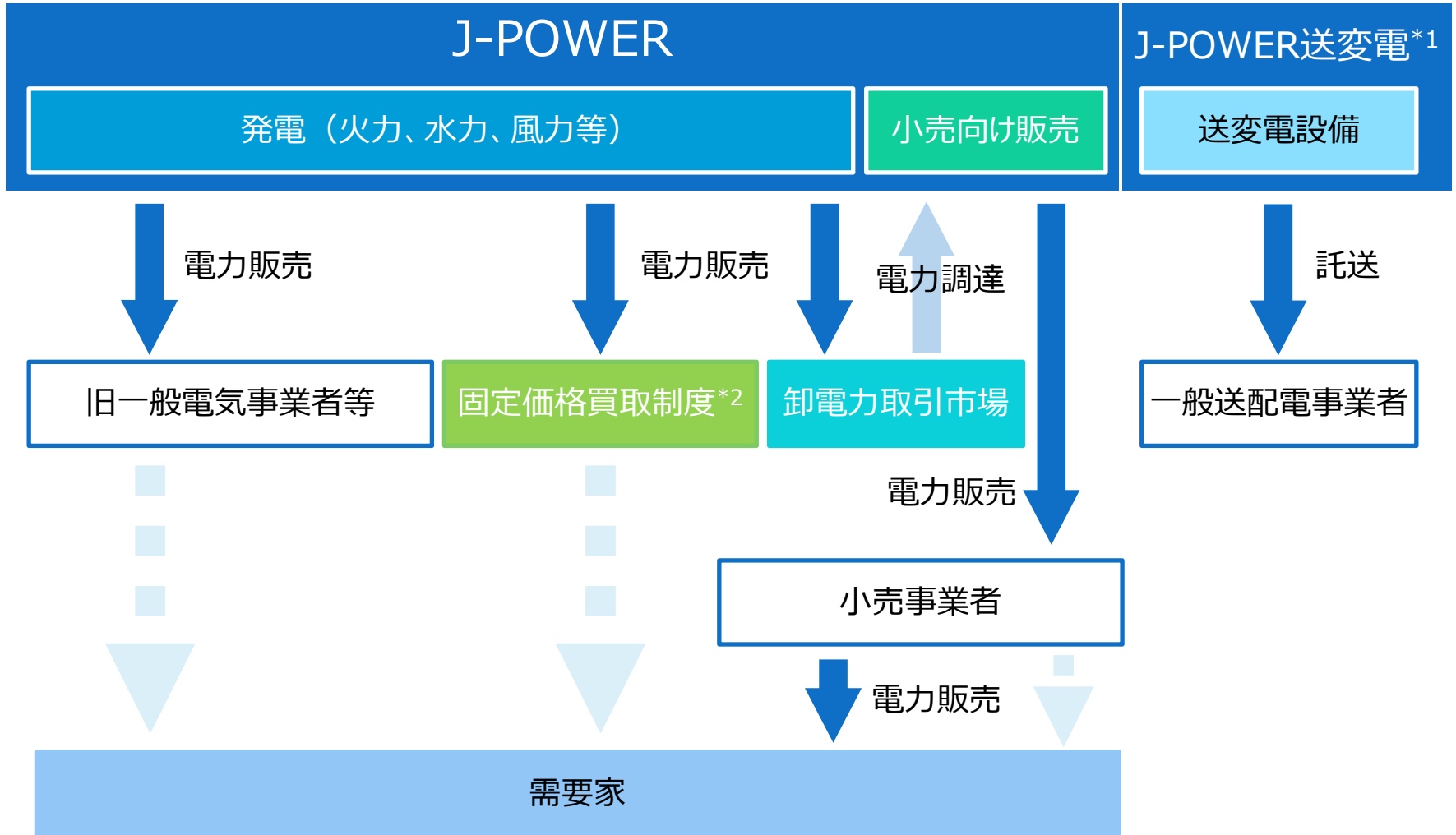
【送変電】

- ・日本をつなぐ約**2,400**kmの送電設備を保有
- ・周波数変換所も保有し、
地域を越えた電力の
広域的な流通に貢献



静岡県 佐久間周波数変換所

①電気事業（主な販売の流れ）



*1 J-POWERグループで送変電事業を行うJ-POWERの完全子会社

*2 再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取る制度

②海外事業

- ・7ヶ国37プロジェクト、持分出力合計**807**万kWの発電設備を営業運転中
- ・現在はアジア地域、豪州、米国で**137**万kWの新たな設備を開発中

2023年10月末現在



トライトン・ノール洋上風力発電所
(英国、21万kW/86万kW)



ジャクソン火力発電所
(米国、61万kW/120万kW)

英国
運転中 21万kW

中国
運転中 115万kW

米国
運転中 251万kW
開発中 10万kW

タイ
運転中 313万kW
建設中/開発中 2万kW

フィリピン
運転中 37万kW
建設中/開発中 1万kW

インドネシア
運転中 68万kW

豪州
運転中 1万kW
建設中/開発中 124万kW



レイクマイニット水力発電所
(フィリピン、1万kW/3万kW)

- ・各国の出力は出資比率を加味した持分出力。トライトン・ノール洋上風力発電所、ジャクソン火力発電所、レイクマイニット水力発電所の出力は「持分出力/設備出力」を示す

②海外事業

- ・J-POWERグループは、①プロジェクト開発力②プロジェクト推進力③ポートフォリオマネジメントという総合力を強みとして、海外事業を拡大
- ・事業環境変化に応じてリスク管理や資産入れ替えを行い、ポートフォリオを変化させることで、事業の収益性とサステナビリティを高める
- ・これにより獲得した収益と知見を基に、再生可能エネルギーを中心とした新たな事業案件を開発。当社のグローバルな事業拡大とカーボンニュートラル実現に貢献していく

プロジェクト開発力

- ・グリーンフィールドからの拡大
- ・先行者利益を確保

プロジェクト推進力

- ・建設から運転まで着実な推進

ポートフォリオマネジメント

- ・事業環境変化に応じて資産入れ替えを行いリスク管理
- ・収益性の向上、資金を次なる投資へ

持続的な事業拡大

強みを生かし、再生可能エネルギープロジェクトなど事業拡大に繋げる



③その他事業（炭鉱投資）

- ・国内石炭火力発電所の燃料用として、1980年から豪州炭鉱に投資
- ・現在は豪州の**3つの炭鉱**に権益を保有
- ・2022年度期末は石炭販売価格の上昇により、大幅に増益



石炭



当社国内火力発電所



世界のユーザー



本日のご説明項目

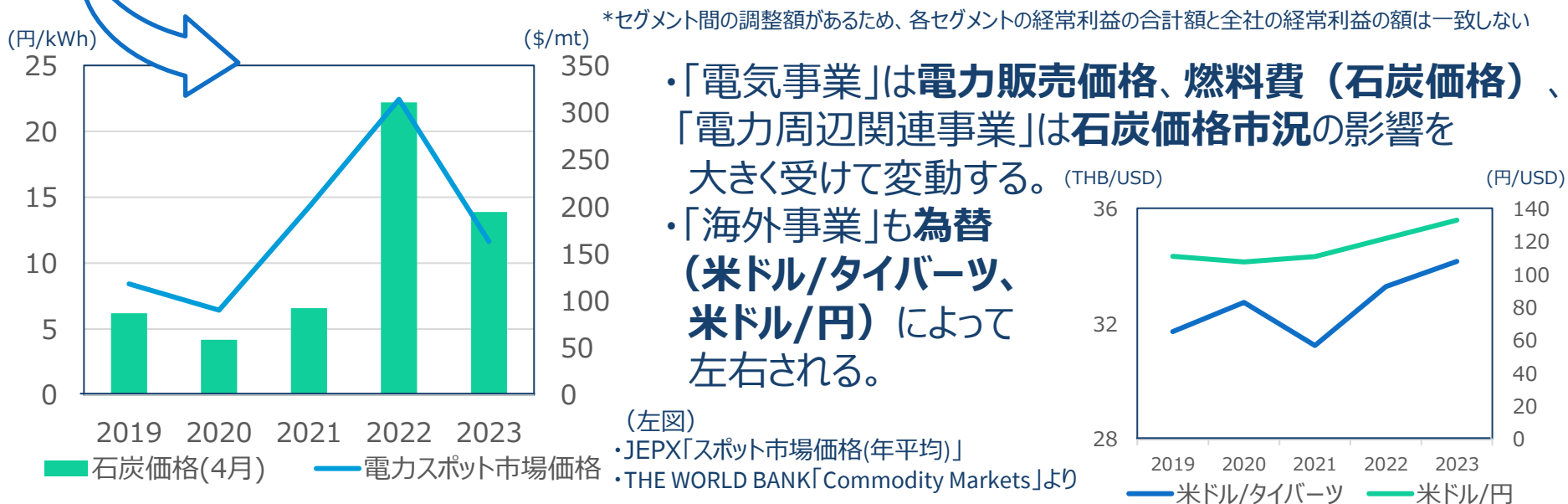
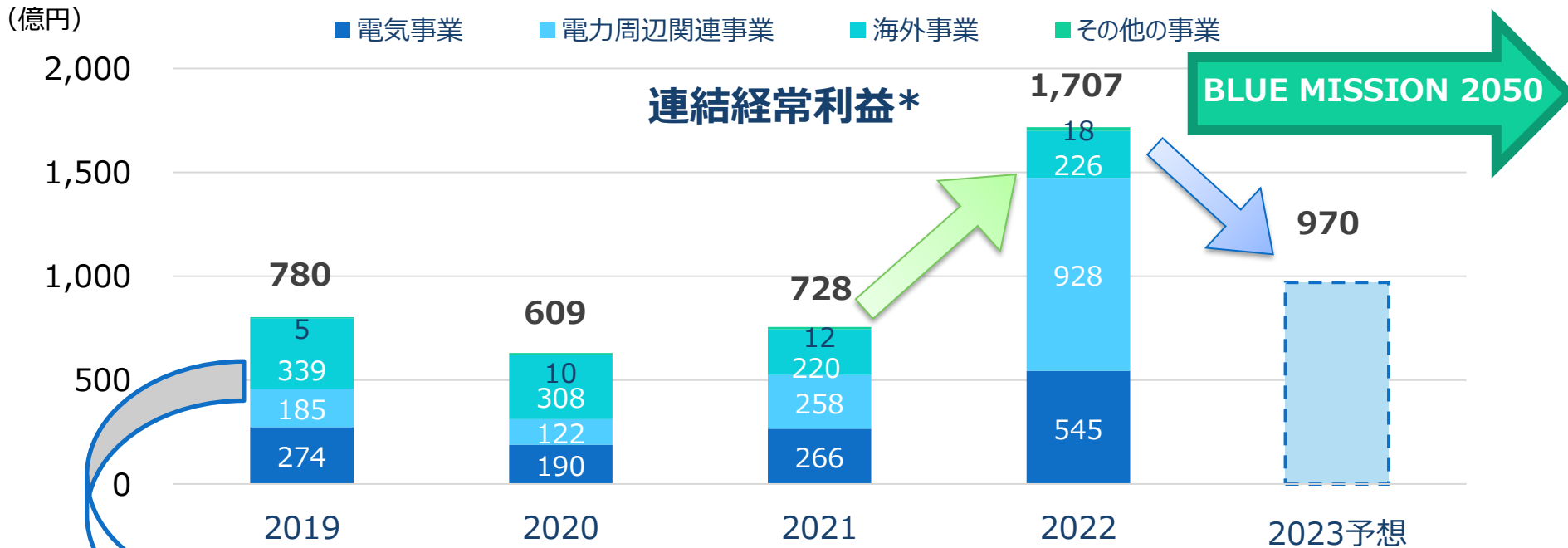
J-POWERの概要

J-POWERの事業

J-POWERの未来

投資家様へのご案内

業績の推移



J-POWER “BLUE MISSION 2050”

- ・気候変動問題への対応のため「エネルギー安定供給」と「カーボンニュートラル」の両立が必要
- ・その具体的な取り組みとして、当社は“BLUE MISSION 2050”を策定

- ・再生可能エネルギーの新規開発
(2025年度までにグローバルに150万kW規模)
- ・大間原子力発電所の建設・運転開始

CO2フリー
電源

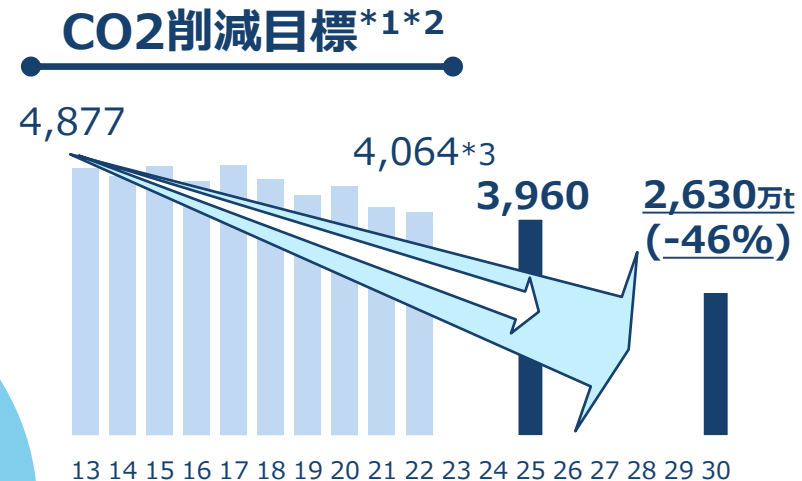
- ・CO2フリー水素製造・発電
- ・国内石炭火力の低炭素化
(老朽化火力のフェードアウト、
バイオマス・アンモニア混焼)

ゼロエミ
ッション化

BLUE
MISSION
3つの柱

電力ネット
ワーク

- ・分散型エネルギーサービスの拡大等
- ・新佐久間周波数変換所の増強



*1 J-POWER国内発電事業CO₂排出量

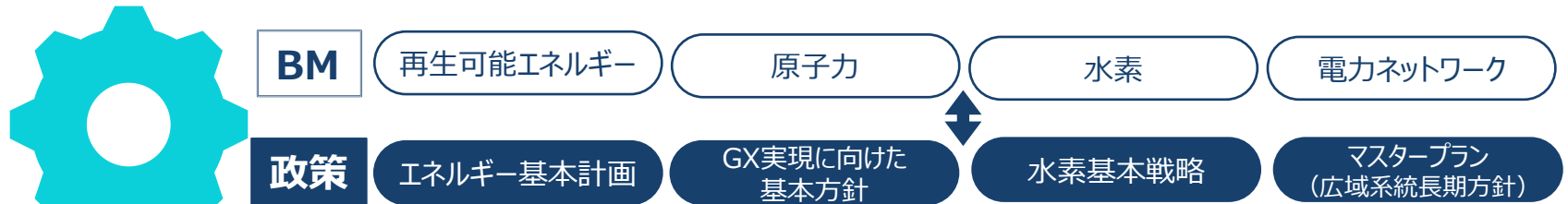
*2 2013年度実績比

*3 2013年度比 -813万t

“BLUE MISSION 2050”による成長

・“BLUE MISSION 2050”は持続可能社会実現の為のみならず、**当社の成長、収益性向上の原動力**

ポイント① BLUE MISSIONの重点分野は、国の重点分野と合致



ポイント②

幅広く豊富な知見と技術を有する



ポイント③

収益性向上施策により、資本効率を向上できる



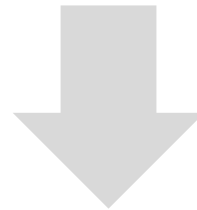
企業価値向上に向けて

- ・当社株価には、**電気事業の不確実性**の高まりに加えて**当社事業固有の不透明感**もリスクとして織り込まれていると認識
- ・今後、当該リスクに適切に対応しながら資本効率を改善していく方策を検討し、

2024年度発表の新中期経営計画に反映予定

	2019	2020	2021	2022
ROE	5.3%	2.8%	8.1%	11.4%
株主資本コスト	CAPMベースで 6% 程度			
期末PBR	0.5倍	0.4倍	0.3倍	0.4倍

直近2カ年のROEはCAPMベースの株主資本コストを上回って伸びているが、PBRは低迷



【改善の方向性】

- ・**再生可能エネルギー**と**海外事業**を成長分野と位置付け、積極的に経営資源投入
- ・**火力トランジション**や**大間原子力計画**等の中長期的課題の予見性向上
- ・**資本効率管理の指標導入**により資本効率を計測・適切な改善策を検討
- ・**開示の充実**・**市場との積極的な対話**を継続



“BLUE MISSION 2050”の取組み

・再生可能エネルギーの新規開発

(2025年度までにグローバルに
150万kW規模)



新苫前ウィンビラ発電所（北海道、2023年10月運転開始）

・大間原子力の推進

(2024年後半に安全強化対策工事開始、
2029年後半に終了を目指す)



建設中の大間原子力発電所（青森県）

・既存火力での水素製造・利用

(松島火力発電所のアップサイクルを実施、GENESIS
松島計画は2026年着工・2028年度運転開始を目指す)



現在の松島火力発電所（長崎県）

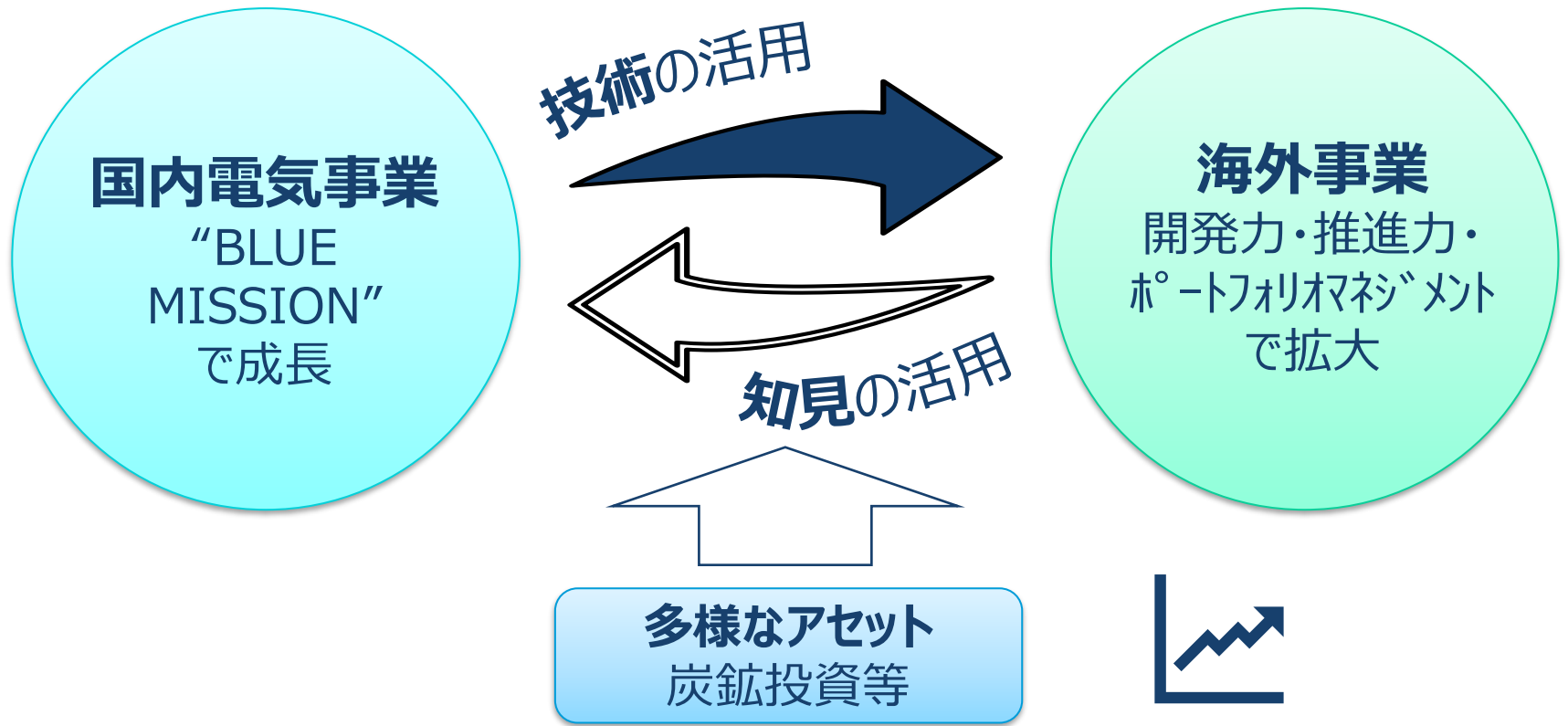
・電力ネットワークの取組み

(新佐久間周波数変換所と関連送電線の増強工事の推進)



佐久間周波数変換所（静岡県）

まとめ



不透明な世界情勢下でも、安定した成長・収益確保を実現

本日のご説明項目

J-POWERの概要

J-POWERの事業

J-POWERの未来

投資家様へのご案内

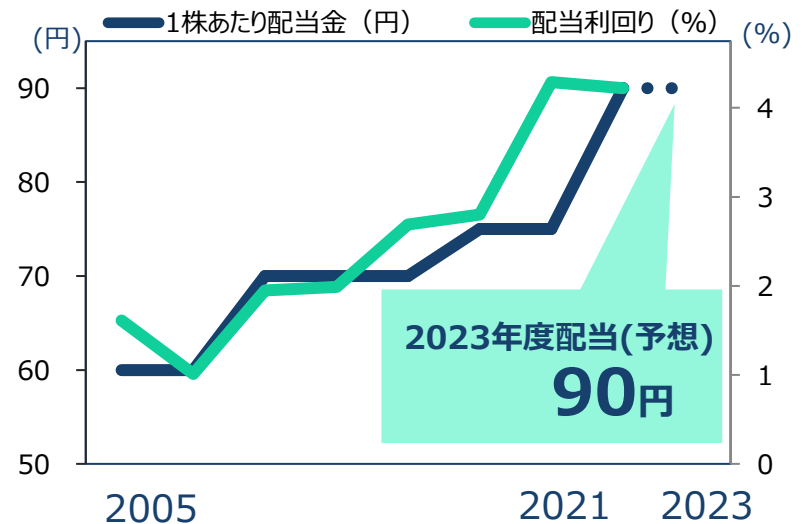
株主様の声

90円に増配嬉しかったです！これからも安定配当ある限りは保有し続けます。頑張ってください！

多様な手法により電源供給を行うユニークな企業として御社に注目しております。
企業の成長に欠かせない技術開発と安定経営が継続され、ひいては株主還元が継続、拡大されることを期待しております。

一株当たりの配当金（年間）の推移

当社は2005年の上場以来、**安定配当を継続**しています。



株主様とのコミュニケーション

会員組織 「J-POWER Shares」



2022.11.02 J-POWER Shares イベントレポート（富山地域発電用バーチャル施設見学会）を公開しました。

2022.11.02 J-POWER Shares シェアのお知らせを更新しました。

2022.10.31 J-POWER Shares ESGカードを更新しました。

2022.10.14 J-POWER Shares 報告書（2022年版）を公開しました。

2022.09.30 J-POWER Shares PR&IRカードを更新しました。

2022.06.16 J-POWER Shares 17POCI MARKET | 予告編を公開しました。



当社を知っていただけるような、楽しい企画を考案中です！

<ご注意>

本資料は、本資料公表日における当社に関する公開情報、及び、当社が本資料公表日において入手している公開情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従って、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なることになる可能性があることをご承知おきください。

